



第14回

# 以前やったことを言ってみよう

～ ed を付けた過去形～

学習のポイント

- edを付けて以前やったことを表現できる
- 以前のことにについて質問したり、打ち消したりできる

英語監修・執筆 鳥飼慎一郎

## ed を付けて以前やったことを表現できる 以前のことにについて質問したり、打ち消したりできる

### ■コミュニケーション

今回は、英語のナレーション (narration) にチャレンジします。

ナレーションとは、映像や芝居などの説明をすることですが、元々は「物語」や「出来事や体験談を語ること」を意味しました。人間は言葉を使って昔起こったことを語るのが好きなのか、世界のどこの地域でも物語があり、その地域で昔起こったことなどが神話、説話、昔話、体験談などの形で数多く残されています。

日本もその例外ではありません。古くは神話の形で『古事記』や『日本書紀』に数多くの物語が残されています。庶民の間でも物語はたいへん盛んで、『今昔物語集』の中に 1000 以上の説話が集められています。琵琶法師や講談師も盛んに物語を語り、人々はそれを好んで聞きました。そう考えると、物語は人間の大事なコミュニケーションの形であることがわかります。

今回学習する ed を動きを表す語の後に付けて、オバマ大統領の広島訪問や 20 世紀後半に起こった歴史的な事柄について英語で語ってみましょう。

### ■単語や表現

番組では、数多くの動きを表す語の後に ed を付けて、以前のことを語ります。以下に例としてまとめましたので、ぜひ皆さんも使ってみてください。

study	→	studied	勉強した、研究した
receive	→	received	受け取った
play	→	played	(スポーツなどを) した
visit	→	visited	訪問した、訪ねた
tour	→	toured	見学した、見て回った
talk	→	talked	話した talked to 人で、人に話しかけた
hug	→	hugged	抱きしめた hugged each other で、お互いに抱き合った
discover	→	discovered	発見した、見つけた
travel	→	traveled	旅行した
happened	→	happened	(出来事などが) 起こった

start	→	started	始めた、開始した
land	→	landed	着陸した
watch	→	watched	(テレビ番組などを) 見た
reach	→	reached	到達した
pay	→	paid	支払った

■英語のきまり

英語の動きを表す語の多くは、**ed** を最後に付けることで以前のことを表す意味になります。そうでない動作を表す語もありますが、ほとんどが **ed** を付ければよいので簡単です。

この **ed** を付けた語を使って質問の文を作るときには、**do** や **does** の代わりに、**did** を使います。その場合、**ed** を付けた語は元の形にもどして使います。

You want some coffee.	<u>Do you want</u> some coffee?
Philip <u>studies</u> Japanese.	<u>Does Philip study</u> Japanese?
Ryo <u>traveled</u> in Europe.	<u>Did Ryo travel</u> in Europe?

打ち消しの文を作るときも同じように、**did not** を使います。そのときも、動きを表す語は元の形にもどして使います。

I play soccer after school.	I <u>do not</u> play soccer after school.
Naomi <u>eats</u> lunch twice.	Naomi <u>does not</u> eat lunch twice.
Hina <u>toured</u> the old city.	Hina <u>did not tour</u> the old city.

上記のように、**do**、**does** だけでなく、**did** を使った質問の文や打ち消しの文でも、動きを表す語は元の形にもどして使われます。このことは、以前学習した **can** を使った文でも同じです。

Jim <u>comes</u> to our house today.	Jim <u>can come</u> to our house today.
	<u>Can Jim come</u> to our house today?
	Jim <u>cannot come</u> to our house today



## アルファベットと発音 ⑭

## Y y

ワイと発音します。最初に軽くウを付けて発音するようにするとうまく発音できます。

**Yes** は、日本語の「ハイ」に当たり、相手の言ったことに対して肯定するときに使います。しかし、日本語のハイと英語の **yes** が同じように使われるかといえばそうではありません。例えば、「お茶を飲みますか」と聞かれた場合に、飲むのであれば日本語でも英語でもハイあるいは **yes** で答えればいいのですが、やっかいなのは「お茶を飲まないんですか」と聞かれたときです。

飲まないときにはどう日本語で答えるでしょうか。「いいえ、飲みません」でしょうか、それとも「ハイ、飲みません」でしょうか。おそらく、「ハイ、飲みません」と答えるでしょう。この「お茶を飲まないんですか」という質問は、質問するほうが相手は「お茶を飲まない」のだと考えての質問です。日本語のハイという返事は、質問をした人の考えが正しいですという意味の返事です。その後で「飲みません」と自分の気持ちを述べます。

一方、英語では、どのように聞かれようが、自分がお茶を飲むのであれば **yes**、自分がお茶を飲まないのであれば、最初から **no** と言います。相手の考えにまず対応し、その後で自分の気持ちを述べる日本語と、あくまでも自分中心に最初から対応する英語との違いが出ているように思います。

\* \* \*

**yellow** は「黄色」あるいは「黄色い」という意味です。虹の色は英語で、**red, orange, yellow, green, blue, indigo, violet** です。

日本語では、赤、橙、黄、緑、青、藍、紫です。面白いのは、英語では **indigo** を除いて数えることがあります。そうすると、英語では虹の色は7色であったり、6色であったりするわけです。赤から紫へと次第に変わっていく色合いを、どこで区切り、それぞれにどのような色の名前を付けるのかは、言語や文化によって大きく異なります。

世界中のどこで見ても同じはずの色なのに、その色に対する区分のしかたや名前が異なるということは、何を物語っているのでしょうか。

